

**第1四半期のAIGに帰属する純利益は16億ドル、希薄化後1株当たり利益は1.09ドルと公表**

- 第1四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は18億ドル、希薄化後1株当たりでは1.21ドル
- 2014年第1四半期の保険事業の税引き前営業利益は、27億ドル
- 2014年第1四半期の株式買い戻し額は約8億6,700万ドル
- 1株当たりブック・バリューは2013年第1四半期と比べて6%増の71.77ドル、その他の包括利益累計額(AOCI)を除く1株当たりブック・バリューは同10%増の65.49ドル
- 2014年第1四半期におけるAIGライフ・アンド・リタイアメントからの現金配当は17億ドル

2014年5月5日(ニューヨーク発):アメリカン・インターナショナル・グループ・インク(ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG)(「AIG」)は、本日、2014年第1四半期のAIGに帰属する純利益が16億ドルになったことを公表しました。これに対して、2013年第1四半期は22億ドルでした。2014年第1四半期のAIGに帰属する税引き後営業利益は18億ドルとなり、これに対して2013年第1四半期は20億ドルでした。

2014年第1四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり利益は1.09ドルとなり、これに対して2013年第1四半期は1.49ドルでした。2014年第1四半期のAIGに帰属する希薄化後1株当たり税引き後営業利益は1.21ドルとなり、これに対して2013年第1四半期は1.34ドルでした。

AIG社長兼CEOのロバート・H・ベンモシェは、以下のように述べました。「当四半期にAIGが堅調な営業収益をあげたことを大変うれしく思っています。事業の収益力と顧客戦略とが相まって、中核となる保険事業全体の基盤を補強しています。私は、世界中でしっかりした勢いが生まれていることに力づけられており、そのため、私たちはお客様のより近くで、より良いサービスを提供することができます。

この業績には、保険事業全体での営業収益の好調、また資本管理戦略の実行が反映されています。私たちは引き続き、業務の効率化、費用の管理、テクノロジー投資に重点的に念入りに取り組んでいます。また組織を簡素化し、効率性を高める方法を探し続けており、将来、成功を収めるような会社を確実に築き上げています。

私たちは、すでに終えた重要な作業を土台とし、さらにこの上に積み重ねていこうとしており、持続可能性が高まるように、引き続き当社を発展、成長させていかなければなりません。このような変革において、また会社として何ができるかを示すという点において、私たちは大きく前進していますが、まだやらなければならないことがあります。何よりも、顧客に対する理解とサービス提供を最優先とする会社として、業務を遂行し、しっかりした業務上の決定をくださなければなりません。」

ベンモシェ社長兼CEOは以下のように締めくくりました。「また私たちは、米連邦準備制度理事会(FRB)などの規制当局としっかり関わっており、AIGを、将来何が起ころうとも持ちこたえられるより良い、より強い会社にするという彼らと共通の目標を達成するために、密接に協力していきます。」

#### 資本および流動性

- 2014年3月31日現在、AIGの株主資本は合計で1,038億ドルとなりました。
- 2014年第1四半期に、AIG普通株式1,740万株を、購入価格合計およそ8.67億ドルで買い戻しました。買い戻しが認められているのは、残り5.37億ドルとなりました。
- 2014年第1四半期に、AIGは直接投資事業(DIB)に割り当てられた現金を用いた、2014年満



## AIG プロパティ・カジュアリティ

(単位：百万米ドル)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 8,334	\$ 8,437	(1) %
正味既経過保険料	8,230	8,558	(4)
事業利益 (損失)	(97)	232	NM
正味投資利益	1,256	1,325	(5)
税引き前営業利益	\$ 1,159	\$ 1,557	(26) %
引受に関する比率：			
損害率	67.1	63.3	3.8 ポイント
取得費率	19.9	19.7	0.2
一般営業費率	14.2	14.3	(0.1)
コンバインド・レシオ	101.2	97.3	3.9
保険事故年度の調整済み損害率	63.2	63.2	-
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	97.3	97.2	0.1 ポイント

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益は12億ドルに減少しました。これは、異常災害および深刻な災害の損失の増加、支払準備金の減少、正味投資利益の減少によるものでした。

2014年第1四半期のコンバインド・レシオは101.2となり、前年同期から3.9ポイント上昇しました。異常災害損失は、前年同期が4,100万ドルであったのに対して、2.62億ドルとなりました。関連する保険料の調整を含めると、前年同期が正味5,200万ドルのプラスであったのに対して、正味1.62億ドルのマイナスの影響がありました。このようなマイナスの影響は、主に、以前開示した米国のプール協約の変更に関連して2014年第1四半期の準備金割引利益が1.05億ドルとなったことで一部相殺されました。2014年保険事故年度第1四半期の調整済み損害率は、63.2で横ばいでした。これはリスク選択の改善、金利上昇、事業構成の変更による改善の継続を反映していますが、深刻な損失の増加によって相殺されました。2014年第1四半期の深刻な損失は、前年同期が6,000万ドルであったのに対して、1.86億ドルとなりました。2014年第1四半期の取得費率は、主に事業構成の変更から0.2ポイント上昇して19.9になりました。一般営業費率は、主に人件費の減少から0.1ポイント低下して14.2になりました。

為替の影響を除くと、2014年第1四半期の正味収入保険料は、前年同期から3%増加しました。商業・インシュアランス事業および消費者・インシュアランス事業の2014年第1四半期の正味収入保険料は、それぞれ3%、2%増加しましたが、いずれもネット・エクスポージャーの増加を反映しています。商業・インシュアランス事業は、成長中の高付加価値事業と料率の引き上げに引き続き重点を置いています。一方消費者・インシュアランス事業は、引受の改善と、複数の販売チャンネルを通じた的を絞った成長に引き続き重点を置いています。

## コマーシャル・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 4,996	\$ 4,903	2 %
正味既経過保険料	5,042	5,128	(2)
事業利益	\$ 113	\$ 396	(71) %
引受に関する比率：			
損害率	69.4	64.9	4.5 ポイント
取得費率	16.2	16.3	(0.1)
一般営業費率	12.1	11.0	1.1
コンバインド・レシオ	97.7	92.2	5.5
保険事故年度の調整済み損害率	65.1	65.4	(0.3)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	93.4	92.7	0.7 ポイント

コマーシャル・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、5.5 ポイント改善して 97.7 となりました。2014 保険事故年度第 1 四半期の調整済み損害率は、0.3 ポイント低下して 65.1 となりました。これは、リスク選択と料率設定の改善に向けて、戦略的措置をとったことによる良好な結果を反映しています。ただし、第 1 四半期の深刻な損失によって、2014 保険事故年度の損害率は 1.7 ポイント上昇しました。一般営業費率は、1.1 ポイント上昇して 12.1 になりました。これは、人件費の減少によってインフラ投資が一部相殺されたためです。また、2013 年第 1 四半期の一般営業費に含まれていた貸倒損失は、極めて低い水準でした。

## コンシューマー・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 3,338	\$ 3,532	(5) %
正味既経過保険料	3,172	3,408	(7)
事業利益 (損失)	\$ (59)	\$ 55	NM %
引受に関する比率：			
損害率	61.3	57.8	3.5 ポイント
取得費率	25.9	24.9	1.0
一般営業費率	14.7	15.7	(1.0)
コンバインド・レシオ	101.9	98.4	3.5
保険事故年度の調整済み損害率	59.3	58.8	0.5
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	99.9	99.4	0.5 ポイント

コンシューマー・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、3.5 ポイント上昇して 101.9 となりました。これは、異常災害損失および個人向けにおける深刻な損失の増加と、前年が低水準であったことによるものですが、費用の減少で一部相殺されました。2014 保険事故年度の調整済み損害率は、0.5 ポイント上昇して 59.3 となりました。これは、主に個人向け損害保険で深刻な損失が 4,100 万ドルとなったことを反映していますが、自動車および保証の収益によって一部相殺されました。2014 年第 1 四半期の取得費率は、販売関連費用の増加が原因で、1.0 ポイント上昇して 25.9 となりました。一般営業費率は、人件費の減少が主な原因で 1.0 ポイント改善しました。

## AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

(単位：百万米ドル)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
収入保険料および預かり資産	\$ 7,129	\$ 5,580	28 %
正味投資利益	2,817	2,877	(2)
税引き前営業利益			
リテール・セグメント	834	821	2
機関投資家セグメント	583	573	2
税引き前営業利益合計	1,417	1,394	2
運用資産	\$ 324,426	\$ 296,868	9 %

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2014年第1四半期の税引き前営業利益は、14億ドルを超え記録的な結果となりました。このような好業績は、AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの多様な商品ポートフォリオ全体にわたり勢いが続いていることを反映しています。業績の要因となったのは、手数料ベースの商品の収益の増加と、スプレッド・ベースの商品の収益性の高まりです。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの収入保険料および預かり資産は71億ドルとなり、正味キャッシュフローが前年同期から13億ドル増加して運用資産は増加しました。金利に敏感な商品は、新契約の規律に則った料率設定、更新保証利率の低下、保証利率が比較的高い古い事業からの撤退によって引き続き恩恵を受けました。

第1四半期の正味投資利益は28億ドルを超えました。基礎投資利回りは、前年同期の5.30%から5.32%に上昇しました。新規投資の利回り低下は、コマーシャル・モーゲージ・ローンの参加利益と、2014年第1四半期に受け取った償還金によって十分相殺されました。正味投資利益はまた、第1四半期にオルタナティブ投資のリターンが上昇したことからも恩恵を受けました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントのピープルズ・インシュアランス・カンパニー（グループ）オブ・チャイナ・リミテッド（PICCグループ）への投資の公正価値は、前年同期が3,100万ドルの増加であったのに対して7,900万ドルの減少となり、正味投資利益にマイナスの影響をもたらしました。

運用資産は、9%増加して3,244億ドルになりました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの商品に対する需要が高まったことから、過去12カ月間の正味の資金フローは58億ドルと高水準を記録し、運用資産の増加に寄与しました。株式市場の上昇によって、団体および個人向け変額年金およびミューチュアルファンドの運用資産が増加しました。AIG のステーブル・バリュー・ラップ契約は、運用資産が前年同期からの130億ドル増加した要因となりました。

収入保険料および預かり資産は、前年同期から28%増の計71億ドルとなりました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントは、商品の料率設定と設計に対して規律に則ったアプローチを維持し、一方で個人向け運用型商品を大きく成長させました。リタイヤメント・インカム・ソリューション事業と個人向けミューチュアルファンド事業の収入保険料および預かり資産は、それぞれ54%、39%増加しました。第1四半期の定額年金の収入保険料および預かり資産は、前年同期の3.76億ドルから増加して合計9.6億ドルに達しました。これは、2014年第1四半期の金利が前年同期と比べて上昇したことを反映しています。

リテール・セグメントの税引き前営業利益は、8.34億ドルになりました。この要因となったのは、手数料収入とスプレッド収入の増加です。定額年金は、既存事業の保証利率に関する動き、資産と負債のデュレーションのマッチング、新契約の規律に則った料率設定、保証利率が比較的高い古い事業からの撤退によって引き続き恩恵を受けました。リテール・セグメントの正味投資収益はわずかに減少しました。これは主に、PICCグループへの投資の公正価値の減少によるものですが、オルタナティブ投資収益の増加で一部相殺されました。

機関投資家セグメントの税引き前営業利益は、5.83億ドルとなりました。この要因となったのはグループ・リタイヤメントの営業利益の増加で、これは運用資産の増加で手数料収入が増加したことと、

スプレッド収入が増加したことによります。また機関投資家セグメントの税引き前営業利益は、PICCグループへの投資の公正価値の減少からも影響を受けました。

2014年第1四半期にAIGライフ・アンド・リタイヤメントが親会社AIGに供与した現金配当は17億ドルで、これには訴訟和解金収入約3.16億ドルが含まれます。

### モーゲージ保証保険

(単位：百万米ドル)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
新規引受契約	\$ 7,745	\$ 10,658	(27) %
正味収入保険料	231	246	(6)
正味既経過保険料	213	194	10
事業利益	41	7	486
正味投資利益	35	34	3
税引き前営業利益	\$ 76	\$ 41	85 %

ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の4,100万ドルに対して、2014年第1四半期には7,600万ドルの税引き前営業利益を計上しました。2014年第1四半期業績には、正味既経過保険料の増加、新たに報告された延滞の減少による既発生損失の減少、第一抵当権付契約の延滞回収率の上昇が反映されていますが、これらは以前拒否された請求の逆転率に関する前提の変更によって一部相殺されました。

正味収入保険料は6%減少して2.31億ドルとなりました。第一抵当権付保険契約の新規引受け（保険付き融資元本）は、27%減少して77億ドルとなりました。その要因は、借り換え活動による住宅取得向けオリジネーションが減少したことです。高い質を保ち、新規契約の平均FICOスコアは751、平均借入金比率は92%でした。

### その他の事業

AIGのその他の事業（モーゲージ保証保険を除く）の2014年第1四半期の税引き前営業損益は、前年同期の1.61億ドルの損失に対して、8,100万ドルの損失となりました。このような回復は、継続中の債務管理活動による支払利息の減少と、資産価格の上昇と特定のポジション解消による実現利益からのDIBの業績の改善を反映しています。これらの改善を一部相殺したのは、スーパー・シニアCDSポートフォリオに関連する評価益の減少と、デリバティブ資産・負債の正味クレジット評価調整額の減少が要因で、グローバル・キャピタル・マーケットの税引き前営業利益が減少したことです。

### カンファレンス・コール

AIGは、2014年5月6日火曜日午前8時（米東部夏時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト（<http://www.aig.com/>）でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

## #####

AIGの補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

カンファレンス・コール (カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます)、業績リリース、補足財務情報には、1995年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関するAIGの考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実でAIGが制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) に対するAIG持分の現金化 (これにはILFCに対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。)、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対するAIGのエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対するAIGのエクスポージャー、AIGのリスク管理戦略、AIGによる配置可能な資本の創出、AIGの株主資本利益率および1株当たり利益、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関するAIGの戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関するAIGの戦略、そしてAIG子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIGの実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIGの実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な法的手続き、銀行以外のシステム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIGが対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIGの投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、2014年3月31日末のAIGのフォーム10-Qによる四半期報告書のパートI項目2(「経営陣による財務状況と業績の検討および分析(MD&A)」)、2013年12月31日終了年度のAIGのフォーム10-Kによる年次報告書のパートI項目1A(「リスク要因」)ならびにパートII項目7(「MD&A」)でとりあげられている事項などがあります。AIGは、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

## #####

### 規定Gに関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、透明性が高いと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非GAAP型の財務数値」が用いられています。GAAPとは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIGが表示する非GAAP型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいはAIGのウェブサイト ([www.aig.com](http://www.aig.com)) の投資家向けセクションで閲覧可能な2014年第1四半期補足財務情報には、非GAAP型の財務数値から規定Gに基づく最もGAAPに類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益(損失)累計額(AOCI)を除く普通株式1株当たりブック・バリューは、AIGの1株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCIを除く普通株式1株当たりブック・バリューは、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な指標だと考えます。AOCIを除く普通株式1株当たりブック・バリューは、AOCIを除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIGは、継続事業の基本的な収益性と、AIGおよび事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIGに帰属する税引き後営業利益(損失)は、AIGに帰属する純利益(損失)から以下の項目を除きます。これは、非継続事業の利益(損失)、事業および資産の売却による純損失(利益)、事業売却による利益、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税金に係る調整、「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金(和解金)、繰延税金評価引当金(減算)、生前給付債務をヘッジするためのAIGライフ・アンド・リタイアメントの満期固定債券の公正価値の変動(支払利息を除く)、給付積立金の増減と繰延保険獲得費用(DAC)、獲得事業価値(VOBA)、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する販売促進資産(SIA)の価値、AIGプロパティ・カジュアリティのその他の(収入)費用-純額、負債の償却損(益)、正味実現キャピタル・(ゲイン)ロス、および正味実現キャピタル・(ゲイン)ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引です。「過去の危機

に関する問題」には、2008年9月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告としてAIGが負担した弁護士費用が含まれます。AIGに帰属する純利益のAIGに帰属する税引き後営業利益への調整については、12ページを参照してください。

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益（損失）には、事業利益（損失）、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、その他（収入）費用 - 純額および上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金は含まれません。事業利益（損失）は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIG プロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料100ドルに対する請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが100を下回る場合は事業利益、100を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率、ならびに調整済みコンバインド・レシオはいずれも、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したものです。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ1,000万ドルを超えました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動（支払利息を除く）、正味実現（利益）損失、給付積立金の変動、正味実現利益（損失）に関連するDAC、VOBA、SIAです。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの収入保険料、預かり資産には、従来型生命保険契約での直接の、および想定される受取額、団体給付契約、生存依存型年金の預かり資産、およびユニバーサル生命保険、投資型年金契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他の事業の税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。上述の過去の危機に関する問題に関連する特定の法定責任準備金（訴訟和解金）、債務消滅における（利益）損失、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、事業および資産の売却の純（利益）損失、給付金積立金の増減、正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連するDAC、VOBA、SIA、および航空機リースなどの事業売却の利益。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIGグループは、世界の保険業界のリーダーであり、130以上の国と地域で顧客にサービスを提供している。AIGグループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。この他、米国においては生命保険事業、リタイヤメント・サービスの事業も展開している。持株会社AIG, Inc.はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc.の追加情報については [www.aig.com](http://www.aig.com) | You Tube :[www.youtube.com/aig](http://www.youtube.com/aig) | Twitter :@ AIGInsurance | LinkedIn :<http://www.linkedin.com/company/aig> |を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc.傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイヤメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ（[www.aig.com](http://www.aig.com)）を参照されたい。全ての商品およびサービスはAIG, Inc.傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サンプラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サンプラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われない。

## アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト\*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)
<b>AIG プロパティ・カジュアリティの事業：</b>			
正味収入保険料	\$ 8,334	\$ 8,437	(1.2) %
正味既経過保険料	8,230	8,558	(3.8)
請求および請求調整費用	5,521	5,413	2.0
取得費用	1,639	1,688	(2.9)
一般営業費用	1,167	1,225	(4.7)
事業利益 (損失)	(97)	232	NM
正味投資利益	1,256	1,325	(5.2)
<b>税引き前営業利益</b>	<b>1,159</b>	<b>1,557</b>	<b>(25.6)</b>
正味実現キャピタル・ゲイン	142	54	163.0
訴訟和解金	8	-	NM
その他の利益 (費用) - 純額	-	3	NM
<b>税引き前利益</b>	<b>\$ 1,309</b>	<b>\$ 1,614</b>	<b>(18.9)</b>
損害率	67.1	63.3	
取得費率	19.9	19.7	
一般営業費率	14.2	14.3	
コンバインド・レシオ	101.2	97.3	
<b>AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：</b>			
収入保険料の売上	\$ 597	\$ 620	(3.7)
保険証券発行手数料	692	615	12.5
正味投資利益	2,817	2,877	(2.1)
その他の利益	460	393	17.0
収入合計	4,566	4,505	1.4
給付および費用	3,149	3,111	1.2
<b>税引き前営業利益</b>	<b>1,417</b>	<b>1,394</b>	<b>1.6</b>
訴訟和解金	30	108	(72.2)
生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の 公正価値の変動、支払利息を除く	76	(29)	NM
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)に関連する DAC、VOBA、SIA	30	(59)	NM
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	(321)	156	NM
<b>税引き前利益</b>	<b>\$ 1,232</b>	<b>\$ 1,570</b>	<b>(21.5)</b>
<b>その他の事業、税引き前営業損失</b>	<b>(5)</b>	<b>(120)</b>	<b>95.8</b>
法定責任準備金	(24)	(11)	(118.2)
訴訟和解金	(12)	2	NM
債務消滅における損失	(238)	(340)	30.0
給付金積立金の変動と、正味実現利益 (損益) に関連 する DAC、VOBA、SIA	(12)	-	NM
航空機リース	17	43	(60.5)
事業売却の純利益	4	-	NM
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	(75)	45	NM
<b>税引き前損失</b>	<b>(345)</b>	<b>(381)</b>	<b>9.4</b>
税引き前営業利益関連の会社間連結・消去調整	35	27	29.6
営業外利益 (正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)を含む) 関連の会社間連結・消去調整	42	45	(6.7)
<b>継続事業の税引き前利益</b>	<b>2,273</b>	<b>2,875</b>	<b>(20.9)</b>
タックス・エクスペンス	614	717	(14.4)
<b>継続事業の純利益</b>	<b>1,659</b>	<b>2,158</b>	<b>(23.1)</b>
<b>非継続事業の利益 (損失)、税引き後</b>	<b>(47)</b>	<b>73</b>	<b>NM</b>
<b>純利益</b>	<b>1,612</b>	<b>2,231</b>	<b>(27.7)</b>
<b>控除：非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：</b>	<b>3</b>	<b>25</b>	<b>(88.0)</b>
<b>AIG に帰属する純利益</b>	<b>\$ 1,609</b>	<b>\$ 2,206</b>	<b>(27.1) %</b>

次のページの注記を参照のこと。

## 財務ハイライト (続き)

	3月31日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)
AIGに帰属する純利益	\$ 1,609	\$ 2,206	(27.1) %
AIGに帰属する税引き後営業利益の調整 (税引き後の値)			
非継続事業の(利益)損失	47	(73)	NM
航空機などの事業売却利益	(12)	(20)	40.0
不確実な税務ポジションおよびその他の税金の調整	(28)	626	NM
過去の危機に関する問題に関連する訴訟損失和解金	(2)	(64)	96.9
繰延税金資産評価引当金減算	(65)	(786)	91.7
生前給付債務をヘッジするためのAIGライフ・アンド・リタイアメントの満期固定証券の公正価値の変動、支払利息を除く	(49)	19	NM
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連するDAC、VOBA、SIA	(12)	54	NM
負債の償却損	155	221	(29.9)
正味実現キャピタル・(ゲイン)ロス	138	(201)	NM
AIGに帰属する税引き後営業利益	\$ <u>1,781</u>	\$ <u>1,982</u>	(10.1)
普通株式1株当たり利益(損失):			
基本			
継続事業の利益	\$ 1.13	\$ 1.44	(21.5)
非継続事業の利益(損失)	<u>(0.03)</u>	<u>0.05</u>	NM
AIGに帰属する純利益	\$ <u>1.10</u>	\$ <u>1.49</u>	(26.2)
希薄化後			
継続事業の利益	\$ 1.12	\$ 1.44	(22.2)
非継続事業の利益(損失)	<u>(0.03)</u>	<u>0.05</u>	NM
AIGに帰属する純利益	\$ <u>1.09</u>	\$ <u>1.49</u>	(26.8)
AIGの希薄化後株式に帰属する税引き後営業利益	\$ 1.21	\$ 1.34	(9.7)
加重平均発行済み株式数:			
基本:	1,459.2	1,476.5	
希薄化後:	1,472.5	1,476.7	
普通株式1株当たりブック・バリュー(a)	\$ 71.77	\$ 67.41	6.5
その他の包括利益累計額を除く普通株式1株当たりブック・バリュー(b)	\$ 65.49	\$ 59.39	10.3 %
株主資本利益率(c)	6.3%	8.9%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率(d)	6.8%	10.2%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率 -税引き後営業利益(e)	7.5%	9.2%	

## 財務ハイライト特記事項

\* 規定Gに従った調整を含んでいます。

(a) AIG株主資本合計を発行済み普通株式数で割ったものを示しています。

(b) その他の包括利益累計額(AOCI)を除くAIG株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。

(c) AIGに帰属する実際または年間の純利益(損失)を、AIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。

(d) AIGに帰属する実際または年間の純利益(損失)を、その他の包括利益累計額(AOCI)を除くAIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。

(e) 実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額(AOCI)を除くAIG平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。